第4回 高槻市学校教育審議会 要点録

日時：令和6年11月29日（金）午後3時～ 場所：総合センター 教育委員会室

出席委員
蛭田 勲 会長、一柳 康人 副会長、城下 英行 委員、津田 和美 委員、 鎌田 ひとみ 委員、宮本 剛 委員、山本 新一 委員、高木 祐樹 委員、安盛 啓史 委員 田中 健文 委員、八尾 洋美 委員、山田 めぐみ 委員、入江 隆男 委員
議事及び具体的な意見
【 1 . 今後の審議内容について 】 「視察の感想の交流」 ○一人の校長の学校運営により、前期課程・後期課程を俯瞰することができ、自ずと教育課程には一貫性が出てくる ○職員の仕事観が変わったことや、やりがいを感じて仕事をしている様子に感動した ○校長のマネジメントの範囲が広がり、教育効果を高める可能性について考える際に校長の力量が問われることになる ○「前期課程、後期課程」という話が多く、4-3-2制のくくりでの教育活動の難しさを感じた ○1年から9年までのすべての子どもが、小学校教員でも中学校教員でも関係なく、「自

分の学校の先生だ」と認識している雰囲気が見て取れた

○教員同士が学びあい、切磋琢磨している姿を子どもたちに見せることができる環境になっている。「子どもにとって最大の教育環境は教員」という言葉があるように、子どもたちが人と人がつながる大切さを実感し、「生きる力」をつけていくことができるのだろうと感じた

○9年間の子どもの育ちと学びをつなぐ小中の文化の融合は、さまざまな部分で授業改革にもつながっていくと思われる

○子どもに合わせた施設的设计が素晴らしかった

○地域の方が使いやすい施設の工夫があった

○施設そのものの良さは、新しくすれば同様にできることであり、その運用の方が大切である。視察先は、すぐ隣にあるコミュニティの拠点と繋がっており、学校を9年間だけの付き合いだけでなく、長い付き合いができる地域の拠点として運用されていることが大切な点だと思った

○地域の方が学校に参画していることが素敵だった

○幼稚園の子どもたちが散歩の途中で学校を訪れ、屋上や校庭で遊び、小学校に段差なく入学できるように交流を重ねていることを聞いて、その環境と受け入れてくれる許容量に感銘した

○生徒が学校行事に関して積極的にかかわり、他学年の交流に多く携わっているとの話を

聞いた。教職員の働き方改革を進めていく上では、地域や他学年の子どもがその中に入って、実現していくことは必要不可欠である

○楽しそうな学校だと感じ、この学校で働いてみたいと思った。子どもたちの気持ちを明るくさせる設計であった

○(義務教育学校制度を導入する)メリットは、教育課程の一貫性、縦のつながりの良さ、教員の学びあいなどである。教員の学びあいは一体型であるから可能であり、意思の疎通は難しい併設型や分離型では可能か疑問なので、やるからには一体型がよいと強く感じた

○義務教育学校にしかできないこととして、既成概念含めてリセットできることがある

○学校は子どもたちの学びや育ちを支援・保障する場所で、環境・施設・取り組みは育ちを支えるものであると考えている。ステージを3つに分けて、第二ステージに力を入れる。学びの根幹はここにある

○通常の学校ではイベントである小中の交流が、9か年の義務教育学校では通過点として日常の交流になっていると思う。柔軟で魅力があり、なおかつ可能性を考えることができるカリキュラムづくりを展開できる。子どもの学びを支えるシステムが義務教育学校だからできるものだと深く感じた

○施設一体型は9年間の同じ友達を作ることができるので、子どもたちのメリットは大きい

○義務教育学校では、一人っ子の生徒が毎日年下の児童と交流することで、学力だけでなく子どもたちの成長につながる点で一体型のメリットを感じる

○施設一体型ではなくても校区が支え合って盛り上がっていた経験上、分離型になっても同じ組織として取り組むことが目指せるとよい

○小中学校をくっつけたという考えから9年間を一貫した一つの学校であるという考えに至るまでの難しさが課題としてうかがえた

○今後、ふさわしい設置形態についても考えていきたい

「今後必要な議事」

○「過去の答申」の概要については、審議内容に関するものもあるため、確認する必要がある

○学校安全を考えるうえで、「交通安全・生活安全（防犯）・災害安全」の三つがあるが、その中でも通学範囲や通学路などの交通安全に関する議論はあってもよい

○高槻での地域コミュニティと各中学校区がどのような現状にあるかは共有しておいたほうがいい。地域とつながり、地域・保護者の方が、学校や子どもたちの応援団として一緒に「地域とともにある学校」づくりの取り組みを考えることで、義務教育学校制度がより充実していく

○子どもたちの継続した学びが保障されることについて研究している校区があると思うの

で、可能であれば学校からの直接の話を聞きたい。あわせて次期学習指導要領については、少しずつ情報が出ているところかと思うので、今後の方向性などについて共有したい

○分離型の学校ではどのような状況なのかを知るために、資料提供などを依頼した方がよい

⇒第5回に会長から審議内容の案を提示することについて承認

【 2 . 次回の審議に向けて 】

・第5回（令和7年1月31日）の審議内容として、過去の答申の内容やこれからの社会に求められる教育について共有することを確認

・今後の審議会スケジュールについて

第5回は1月31日（金）15時から予定していることを確認